

香南市総合防災訓練



参加者総数
5,476人

地域の防災力高まる

自主防災組織や自治会を対象に、8月31日(日)午前8時55分、南海地震が発生したとの想定で、市総合防災訓練を行いました。
訓練開始となる午前9時には、サイレンや防災無線を使って避難指示を発令し、全215カ所の避難場所へ避難。消防団などを含めた訓練参加者数は、昨年より千人ほど多い約5千5百人で県内一の参加者数となりました。自主防災組織数も61組織から71組織へと増えており、地域の防災力が年々高まっています。

助け合いが

人の命を守り

地域を守る



▲避難場所では名前を書いて
▲倒壊家屋から救助したら、
応急手当をして



▲非常持ち出し袋の中身は何か？消防署員の説明を真剣に聞く児童たち

真剣なまなざしで

訓練に取り組む

今年の主会場岸本小学校(となった香我美町岸本地区)サイレンとともに続々と避難する人の中には、津波にさらわれないようにとロープでつなぎ合って避難するなど工夫する姿もありました。会場では、倒壊家屋に人がいるとの想定で、救出訓練と応急手当訓練を消防署員の確かな指示に従いながら、地元自主防災組織6組織が真剣に取り組みました。また、高知駐屯地の自衛隊員も自前の救助用資機材を使ってこの訓練に参加し、統制のとれた機敏な動きで救助を行いました。



▲自衛隊は、「ファイバースコープ」を使って救助者を捜索
▲炊飯車は、約250人分の主食と副食を45分以内で調理できます

平成22年度末に移駐予定の第50普通科連隊が、炊飯車でお米を炊き、女性防火クラブがおにぎりをつくりました。非常食の訓練としてつくられたこのおにぎりは、給食で児童たちに配られました。

地域をまとめ訓練に参加

赤岡町の西部自主防災会は、昨年11月に結成されました。これまで、地域の参加者が少なかったことから組織結成に向け、小松大助さんが代表者となり会を開くなど住民の意識向上に努めました。その結果、当日の訓練には63人が参加。避難場所に集まった住民らで、消火栓の使い方やバケツリレーによる消火訓練などを行い、地域の団結を高めました。このような地域での訓練は、



▲バケツリレーによる消火訓練は、赤岡町の松ヶ瀬コミュニティー避難広場へ避難した西部自主防災会の訓練。子どもたちも一緒に参加しました

自主防災組織ごとに行われ、防災資機材の点検や炊き出し訓練、応急手当の講習会などが実施され、自主的な活動がみられました。

未組織地域解消へ全力!

今回の訓練は、自主防災組織以外にも未組織の自治会へチラシ配布やケーブルテレビなどで参加を呼びかけました。未組織地区からも多くの参加があり、一人一人の防災意識は高まっています。しかし、自主防災組織の結成率は65%とまだまだ低いのが現実で、未組織地区解消に向け全力で取り組む必要があります。

補助金を活用し、自主防災組織をつくろう

近い将来必ず起こるとされる南海地震への備えは、まず自主防災組織を結成し、地区住民が自分たちで避難場所を決め、自治会への未加入者を含めた地域ぐるみの助け合いを行うことが大切です。隣近所のつながりをより強くし、地域の和を広げ団結する力をつけることが必要です。

組織結成時には、市の補助金が活用できますので、早期の結成をお願いいたします。

【問い合わせ】

防災対策課 ☎ 57-8501

地震の揺れで割れたガラスから子どもたちを守ろう!

市内の各保育所・幼稚園では、突然の地震や事故などで割れたガラスの破片で子どもたちが「けが」をしないように、ガラスへ飛散防止フィルムをはる作業をしています。8月16日(土)野市保育所では、保護者と保育士が力を合わせて窓ガラスにフィルムをはりました。



▲5・6年生の心肺蘇生法講習会